

[成果情報名]酒造好適米品種「吟のさと」の特性と栽培法

[要約] 「吟のさと」は”晩生の中”にあたる”穂重型”の酒造好適米である。多収で、心白の発現が良好なため外観品質に優れる。移植適期は6月2半旬～3半旬、幼穂形成期における穂肥要否の指標は草丈72～78cm、莖数330～400本/m²、葉色(SPAD)34～39で、収穫適期は出穂後積算日平均気温1100前後である。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・栽培部・作物特作科・上野直也

[分類] 技術・普及

[課題の要請元]

山梨県酒造組合、花き農水産課

[背景・ねらい]

山梨県の平坦地向け酒造好適米水稻奨励品種「玉栄」は、大粒で、栽培性は優れるものの、熟期がやや早いことから、胴割れ粒が多いため外観品質が劣る。このため精米特性が劣り、吟醸酒には向かない。一方、実需者からは商品の差別化のため、吟醸酒用の品種の選定が求められている。そこで、栽培性に優れ酒造特性が高い品種の選定を行い、酒造好適米の栽培法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 「吟のさと」は、(独)九州沖縄農業研究センターにおいて「山田錦」を母とし、「西海222号」を父として交配・育成された品種で、2010年に品種登録された。
- 2 「吟のさと」は「玉栄」と比較し次の特性を持つ。
 - (1) 熟期は10日程度晩熟な、“晩生の中”である。稈長はやや長い、稈が太いため耐倒伏性は優れる。穂長は長く、穂数は少ない、“穂重型”である(表1)。
 - (2) 収量は同等で、心白整粒率が高く、外観品質に優れ、玄米タンパク質含有率は同程度に低いため、吟醸酒の醸造用に適している(表1)。
 - (3) 千粒重は2g程度軽いが酒造好適米としては大粒である。粒厚が薄いため、調整時には生産物に応じた篩目を選択する(表1、図1)。
 - (4) 仕込み後の酒質は、香り、味ともに良好で評価は高い(表2)。
- 3 平坦地における移植適期は6月2半旬～3半旬、収穫適期は出穂後積算日平均気温で1100前後、帯緑色率10～15%の時期である(データ略)。
- 4 基肥と穂肥の量は窒素成分でそれぞれ6～8kg、2kg/10aとし、穂肥は幼穂長2cmの時期に行う。幼穂形成期の適正な生育指標は、草丈72～78cm、莖数330～400本/m²、葉色34～39(SPAD)で、これよりも葉色が濃い場合は穂肥の施用を控える(図2、表3)。

[成果の活用上の留意点]

- 1 標高350m以下の平坦地を対象に栽培する。
- 2 いもち病の抵抗性は「コシヒカリ」程度のため、防除を徹底する。
- 3 他の品種よりも葉色が濃い晩生品種のため、栽培後期の食葉性害虫の防除を徹底する。

[期待される効果]

- 1 営農組織において集団的に生産を行うことで、他品種との作業分散が図れるとともに、収益性の向上が見込まれる。
- 2 県産米を利用した日本酒の醸造により、県独自のブランドが創出され、酒造実需者の活性化につながる。

[具体的データ]

表 1 栽培特性

品種名	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	玄米重 kg/10a	千粒重 g	倒伏程度 (0-5)	外観品質 (1-6)	心白 整粒率 %	玄米 タンパク %
吟のさと	8.25	10.07	81.6	21.9	304	534	28.3	0.1	2.8	52.3	6.9
玉栄	8.15	9.26	76.5	20.6	327	550	30.7	0.9	4.3	30.4	6.8

- 1) 2008～2011 所内 6月1半旬移植 施肥量(kg/10a): 基肥 N・P2O5・K2O 各 5 穂肥 N・K2O 各 2
 2) 外観品質: 1:特上、2:特等、3:1等、4:2等、5:3等、6:規格外までの6段階評価(甲府地域センター)
 3) 倒伏程度: 0(無)～5(甚)の6段階評価(観察)

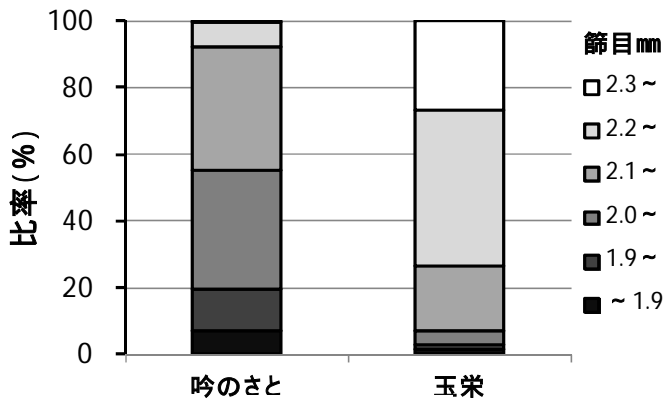


図 1 粒厚分布

- 1) 粗玄米 200g を 5 分間振とうした割合
 2) 2012 年所内試験試料 6/18 移植

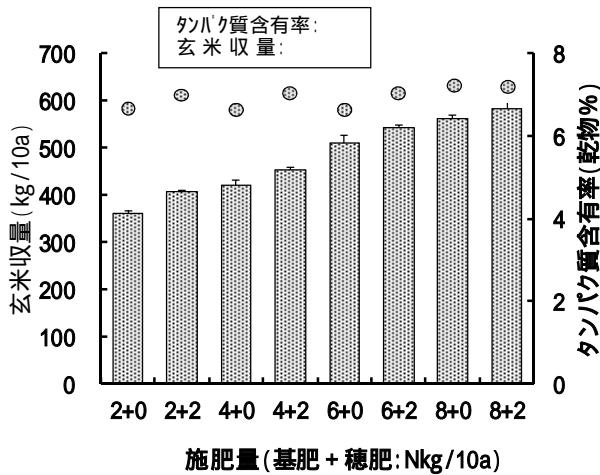


図 2 施肥量による収量と玄米タンパク質 (2011 年)

表 2 「吟のさと」の酒質の評価

項目	評 価(人)					
	良好	やや 良好	標準	やや 難	難	
A社	香り	2	5	3	0	0
	味	4	3	3	0	0
	総合	5	-	5	-	0
B社	香り	2	5	2	1	0
	味	2	5	3	0	0
	総合	7	-	3	-	0

- 1) 工業技術センターで実施 パネラー数 10 人
 2) 60%とう精

表 3 「吟のさと」の幼穂形成期の生育指標

項 目	指 標 値	
草 丈(cm)	72～78	
茎 数(本/m ²)	330～400	
葉 色	SPAD	34～39
	葉色板 (群落)	4～4.5
草丈*茎数*葉色(SPAD) 1000	800～1200	

[その他]

研究課題名: 水稻品種の比較試験・酒造米および有色素米の栽培と利用に関する研究
 予算区分: 県単・理工学
 研究期間: 2008～2012 年度
 担当者名: 上野直也、石井利幸